

環境先進国

ドイツから学ぶ

27

吉田 浩巳



NABU(ドイツ自然保護連盟)の収益は年間2100万坪(約24億円)です。一部の人は、生活条件等の理由により会費を割り引きしていますが、基本的には一人につき年間48坪の会費を払ってもらっています。企業や団体等からそれぞれプロジェクトへ寄付もしてもらっています。

また、日本では法を犯すと罰金は国へ入りますが、ドイツでは罰金がNPO団体へ入るので、それも収益の一部となっています。年

れを請け負うことも多く、公共工事を行行政だけが担っている日本とは大きく違う点です。

NABUの活動は、土地を買い、その土地を自然保護区にし植物・動物の生態系を守っています。現在、ヘッセン州内では約2000軒が自然保護区としてNABUの所有となっています。その土地はNABUが持ち主で永遠に所有することで自然保護を継続させようと思っています。ヨーロッパには、自然を

森の中に道路をつくる場合、森を守りたいと思う町の人々が、森の代弁者として(道路を作ることに対して)反対裁判をできるという法律がドイツにはあります。子どものうちに自然と戯れる経験をしていると大人になつても自然を大切に思う気持ちでネットだけで自然を知っている人よりも強いと思います。子どもはとて大切であるとも、エブラー氏は話してくれました。

コウモリは、ドイツでは家に住み着いているのがわかったら追い出してしまうのが一般的ですが、NABU

会員40万人のNPO⑤

子どもたちにも自然教育

々、罰金による収益は減る傾向にあります。NABUは、事業を拡大し、多くの自然保護センターを国内で運営しています。

道路工事等の公共事業は、ドイツでは市民が費用を払い環境NPO団体がそ

守るためにすることのガイドラインがあり、各国でどういうことをしなさいという決まりができています。ドイツでは1970年代(オイルショックの時期)

(オイルショックの時期)に原子力を利用することを決定しました。しかし、最終処理の問題は世界中でもほぼ解決されていません。ドイツにも安全に処理できる場所はありません。

NABUのヘッセン州代表のゲルハルト・エブラー氏は「原子力発電は、滑走路の無いままの飛行機のように」と表現しています。

Uでは「コウモリに優しい家」というプロジェクトを作り、自然や動物と触れ合うことを主旨とした子どもたちへの教育を行っています。

何かを変えていこうとするならば、枠組みを変えていかなければなりません。環境政策は、100%市場にゆだねるのではなく、政策として正しい方向に導くという政治の役割が大きいです。そのためNABUは行政と敵対するのではなく、行政の政策形成の委員会等に積極的に参画し、政策実現への取り組みに市民の声を届ける役割を担っています。

(社団法人まちづくり国際交流センター理事長) 毎月第2、第4、第5



歩道が途切れても、自転車専用レーンが設けられている道路

水曜日掲載